福祉系学科を設置する大学の高大連携について

－大学へのヒアリング調査から－

○　関西福祉科学大学　　酒井美和（関西福祉科学大学・7099）

米澤美保子（関西福祉科学大学・7409）、竹中理香（関西福祉科学大学・3948）

豊田志保（関西福祉科学大学・5949）、野村恭代（関西福祉科学大学・6252）

一村小百合（関西福祉科学大学・5134）、杉本敏夫（関西福祉科学大学・1042）

キーワード：高大連携・高大接続・福祉系教育

１．研 究 目 的

高大連携とは、初等中等教育と高等教育間における円滑な移行（高大接続）を支えるために高校および大学が連携することを指す。1999 年に中央教育審議会から「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（答申）が示されて以降、全国の各大学が高大連携に取り組んできた。しかしながら、多くの大学では本来の高大連携が目指した、高校と協同して「高校生・大学生が自ら学び・考える力」を養う教育方法の創造ではなく、特定大学の入学者の増加を目指した高大連携が行われた。

高大連携の状況の改善に向けた中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」（2008）においても、「高等学校と大学との接続の場面においては、大学入学者選抜の点のみ焦点化されがちであるが、高等学校と大学との連携により、教育内容や方法等を含めた全体の接続が図られていくことが重要である。」と提言されているが、現在でも全体的な高大連携は行われておらず、どのような方法が実際には可能なのか検討する必要があると考えられる。

よって、本研究では本来の「高校生・大学生の自ら学び・考える力」を養うための高大連携を検討するために、現在大学で行われている方法や内容を調査した。また、現在までの研究では分かりづらさ故に殆ど類型化されることのなかった高大連携を対象別・内容別に分類することを試みた。その上で、福祉系学科としては、福祉の教育内容を含めた、どのような高大連携が可能なのか改めて考察することを目的とする。

２．研究の視点および方法

本研究では先進的に取り組んでいるＡ～Ｄ大学の４校にヒアリング調査を行った。実施時期は 2011 年 11 月であり、報告者らが大学を訪問し、1 大学 2 時間程度のヒアリングを行った。なお、本報告における高大連携とはヒアリング時に回答者が答えた「高大連携」の認識に基づいている。なお、本研究は関西福祉科学大学学内助成を受けて行われた。

３．倫理的配慮

ヒアリング調査の際には日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき、倫理的配慮を行った。

４．研 究 結 果

各大学が「高大連携」として行っていると回答した内容を整理した結果は表１の通りである。B 大学①および②はキャンパスが離れており、高大連携もキャンパス別に異なるため、２校に分けて表記した。

表 1

	A大学	B大学①	B大学②	C大学	D大学
高校生対象					
出前授業			業者仲介により年100回程度出前授業を実施。出前授業は職業別、進路別を対象に行っており、将来に向けた学びの授業が中心。高校に訪問し、大学説明を行うこともある	教員が出前授業に行くだけでなく、大学生が出前授業を行うこともある	・高校に依頼されて年20回程度、出前授業に行く。その場合には、高校授業の一環として行っている。その他、業者仲介の場合もある ・付属高校には頻繁に出前授業に行く
大学の公開 （聴講、研究室公開、模擬授業、施設見学）	連携高校に対しては、正規授業の開放や出張授業を実施している 広く一般の参観が可能な授業公開週間を設けている 2．3月に4日間に渡って開講している入学前授業のコミュニケーションリテラシーを、入学予定者の約8～9割が受講している	各学部から1科目を開講し、高校生は聴講生として毎年2名程度受講。心理学、中国語などを開講しており、福祉科目は開講していない	多数の科目を高校生向けに開講している。業者を通じて、週に3～4回程度、高校生が大学見学に訪れる	・年1回、高校福祉科クラスの高校生が大学を訪れ社会福祉入門の授業を受講 ・高校生訪問時には、教員による大学説明、大学生による大学生活の説明なども実施	・高校からの依頼で見学に来たり、業者仲介で見学に来る ・入学予定者に来学してもらい、授業を行ったり、レポートを課したりしている
単位認定	入学後、「コミュニケーション」に関する講義の単位認定を実施			入学後、オンデマンド授業の単位認定を実施	
その他				・ネットワークを介したオンデマンド授業も高校生に対して開講している ・福祉教育研究フォーラムを定期的に実施	
高校教員対象					
連絡協議会	年に1回。事業計画報告・人員紹介を実施		年間数回実施	必要に応じて実施	年2回実施
研究会・講演会	過去に2年間、月１回、研究会を立ち上げて、高大連携の内容を検討した			福祉教育研究フォーラムを定期的に実施	昨年度、研究会を始めて実施し、今年度も実施できるよう準備をしている
その他			オープンキャンパス時に高校教員に対して大学説明会を実施		学校運営協議会に行く場合がある
大学生対象					
初年時教育	学科ごとに必修科目を開講している				
その他				・大学生が高校で出前授業が行えるよう、プレゼンの事前準備、練習の支援を行っている ・福祉教育研究フォーラムを定期的に実施	・出前授業時に大学生も同行する場合がある。高校生に対して話す場合もあり、その際にはサポートを行っている ・高校から大学生に来てほしいという要望はあるが実施には至っていない
その他					
大学入試			付属高校には特別推薦入試枠がある		付属高校には特別推薦入試枠がある
他機関との連携				他大学等とも連携しながら、福祉教育研究フォーラムを定期的に実施	コンソーシアムに参加
その他				高校生と大学生が共同で社会福祉の現場に関わるDVDを作成	
自由記述	・高校が求めているキャリア教育をどのように高大連携にいかしていくのか ・福祉を目指す学生に将来像を示せるように、例えば、大学の卒業生との連携も密にして、高校生のインターンシップを導入する	・積極的には高大連携を推進してはいない ・聴講生は出願に結びついている ・高校の進路指導教員と連絡が取りやすくなった	・積極的に高大連携を推進はしていない ・聴講生は出願には結びついていない ・教員組織が先行しているため、大学全体の高大連携組織作りが必要	・全学的に連携しながら、どのように高大連携を進めていくかは課題 ・大学受験生の増加ではなく、福祉希望者全体を増やすことが大切。そのためには他大学との連携も大切 ・メディアを上手く活用することが大切	・高大連携の効果かどうかは不明だが、連携校の受験者数は増加している ・高大連携を担当している部署によっては可能な連携内容も限られる

５．考 察

高大連携として全ての大学で挙げられた項目は模擬授業などの大学公開であり、高校生が大学を訪問する形式で実施されていた。他項目については、大学によって実施状況は異なっていた。本研究の目的である「高校生・大学生の自ら学び・考える力」を養うための高大連携のためには､高校教員と一緒に検討する研究会等の実施が重要だと考えられるが、現在ではＣ大学・Ｄ大学以外では行われていなかった。多忙な高校教員と大学教員が協力しながら研究会を行うにあたっては、日程調整や参加者の取り纏めなど困難が伴うが、互いのもつ知識や技術を持ち寄ることは非常に重要なことであると考えられる。例えば、研究会で「高校生・大学生の自ら学び・考える力」を養うための教育内容や方法を検討することも可能である。大学の福祉系学科教員と高校教員が共同して福祉系教育プログラムを開発し、高校や大学で使用可能な教材を作成することも出来るのではないだろうか。